



舊鶴岡縣廳之係ル屋制ヲ革メ不正課出ノ全額ヲ償還請未ノ許ニ甘
 昨明治九年五月二日臨時出張裁判ヲ開カレ六月十五日ニ至リ兎嶋
 判事ヨリ出訴ノ儀追々吟味ヲ遂ケ連累十一名ヲ處分スト至ル本訴
 ノ件々ハ事頗ル内務大藏ノ両省ニ關係スルヲ以テ歸京ノ上該省
 擔任之官員質問ノ末ニ非ナレハ裁決難相成依テ裁判之儀ハ追
 テ縣裁判所ヨリ可申渡ト口達相成リ衆民始ノ私共一同巨テ企テ
 テ裁決之日ヲ相待候所漸半年ヲ過キテ裁決ニ至ラス加之ナラズ已
 ニ出訴ニ相成居候種々食利金ノ如キハ縣官ヨリ督促ニ相成リ人民
 ノ疑惑少カラズ依之全升名整テ以テ總代トシテ出京本年一月廿
 五日司法省へ因國連ニ裁判相成度旨出願候所該件ハ其節へ上申相
 成居度付歸縣裁判ヲ可待旨且等屬飯田文彦口達ニ甘允整出京之
 事情猶又詳細申述度得共該事件ハ特別ヲ以テ兎嶋判事出張相
 成リ已ニ其節へ上申中ナルハ該省ヨリハ何方ノ指揮難相成旨被申

114
A 390
1



舊鶴岡縣廳之對スル許訟裁判遷延ノ儀ニ付願

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



聞之旨允整頓ヨリ申越シ衆民一同當惑仕此上ハ名古屋裁判所ハ
 罷越児嶋判事ハ催促之外有之間敷ト評議中麻児嶋ノ事件不
 容易致勢ニ付差扣申候然ルニ其中或ハ軍事ハ自カラ其任ノ在ルヤ
 リ豈裁判ノ如此遷延スルアラレト是非出京歎願ニ可及ト已ニ衆民集
 令ノ色有之候事ニ有之候得共私共明治七年以來人民ノ依頼ヲ
 得設作事ヲ擔當致候儀ニ差得ハ理ヲ以テ之ヲ論解ニ偏ニ西南ノ鎮
 定ヲ相待候然レニ漸ク西南鎮定ニ相成候ニ付テハ衆民裁判ノ渴望
 スルノ情難遏止又々衆民ノ依頼ヲ得今般出京仕候抑該事件ハ明治
 七年ニ起リ教事故ヲ任テ児嶋判事ノ出處裁判ト相成リ人民ノ克任始
 ヲ伸ルヲ得ント依躍仕候所宣計ニ口供甘結ノ後一周有余年ヲ過キ前後
 四年ニシテ猶未タ決セズ且其曲直判然セサルヲ以テ旧弊未タ脱セズ課出ノ明瞭
 ナラカルモノ今猶有之况ヤ償還ヲ求メ金大約十萬圓内外ノ金ニ有之莫大ノ
 金幣官ノ不正ニ屬スル者乃チ別紙ノ通ニ候聞カ如キハ諸縣ニ於テモ官民ノ給
 難有之ト至巨皆何レモ曲直判然落着ニ相成未タ旧鶴岡縣民出訴ノ件ノ

如キ遷延相成候ハ兼リ不申候願クハ御明新ヲ以テ控リ昔カ縣民ヲ後ニスル
 ナキヲ懇願仕候也

山形縣下羽前田川郡
 高坂邑二十九番地士族

明治十年十二月廿日

大友宗兵衛印

司法卿大木喬任殿

別紙

第一条 石代賣拂過金償還ヲ請求スル事

此縣廳ニ取扱候米五斗石拂代利益金壹萬貳千圓余

裁判ニナルヘキ事

第二条 種支食利米

此金五万三千六拾六圓余

裁判ニナルヘキ事

第五条 納方内後手蓄米

此租稅御雇給料差引金三千七百九拾圓位

明治六百年 三割利
 明治七年 口新
 明治八年 口八交年二割

裁判ニナルハキ事

第六条 鶴岡酒田加茂三ヶ所藏減米備下敷米藏番給

大九米四千七百拾三表余

裁判ニナルハキ事

第十条 田敷 第十三条 村費課出 第十四条 後日間製

裁判ニナルハキ事

右之通

大木百出御願

明治十一年十一月廿五日

大木百出御願

上米部... 裁判ニナルハキ事... 大九米四千七百拾三表余... 田敷... 村費課出... 後日間製... 裁判ニナルハキ事... 右之通

114
A 350
2



別紙願書御下度ニ付歎願書

別紙ヲ以本月廿日司法省ニ出願差所本日御呼出ニ付出願仕度所等屬飯田支彦出應
該事件之儀ハ当春金升名整へ申達候通ニ而向其節上申御評議中ノ所座見
嶋事件等ノ為追々遷延相成候事ニテ猶又当省ヨリ其節上申ニ相成候ニ付
歸縣御裁決之日ヲ可相待旨口達ニ付私儀出京ノ次第ヨリ該縣民情申速差へ
共書面ニ難留置何分前達ノ極ヲ解歸縣裁決中可待トノ旨不得已退キ愚考
仕度ト雖此候歸縣當春金升名整へ御達相成候通ニ有之ト申聞セ候ノ象
民愈失望如何様ノ儀出来可仕ニ難計私儀此ニ付以テ速ニ歸縣難相成去連
御省ニテ御採用無之進退實ニ極リ如何成スヘキヲ不知願クハ閣下宜ク別紙申
上候情實深ク御諒察被下速ニ家御裁決度此段仗而奉懇願差也

明治十年十一月七日

山吹縣下羽前國四川郡
高坂村三十九番地士族

大友宗兵衛

大木司法卿殿

明治十年十一月二十六日

宗兵衛

謹テ言ス司法卿閣下

聞民ノ生タル独居

大正十一年四月

シテ以テ生ヲ遂クヘカラス故ニ相助ケ相養イ相聚リ相群ス群スレハ斯ニ争フ争
ハ則チ其曲直ヲ判スルモノアリ其曲直ヲ判スルモノハ則チ必ス智之レニ過クルモノ
也智之レニ過クルモノハ常ニ上位ニ立チ智之レニ及ハサルモノハ常ニ下位ニ居ル是則チ
主治者ト被治者ノ始メテ判スル所ノ源ニシテ政府ノ創立スルトコロ入民ノ後チ
業ヲ安スルトコロノモノナリ更レ人事頻繁争フ所必ス紛雜之レカ紛雜ヲ治ルモノ
必其道ナクハアルヘカラス其道ヲ立ツルモノハ必ス先ツ豫メ其條理ヲ明ニシ其執範
ヲ定メスハアルヘカラス是レ法律ノ以テ起ルトコロ故ニ如何ナル野蠻未開ノ國ト雖モ
法令ナクモ能ク其國ヲ立ツルモノアラサルナリ故ニ法律ハ入民各自ノ争ヲ過メ
政府ノ以テ人民ヲ約シ人民ノ憑テ以テ準標トシ因テ以テ交際ヲ固クスルトコ
ロ故ニ法律ノ定ムルトコロハ政府人民ノ遵行スルトコロ工ノ規矩ニ於ケルカ如ク見
易ク知リ易ク其取方正ニシテ而シテ嚴峻吏ノ流動止マシ機ニ臨ニ妻ニ應ニ運轉
自在政略ノ比ノ如キニアラサルナリ但其人智ノ未タ開ケ又政理ノ未タ修ラサル其
治術ハ衆庶ノ知リ易キニ在ラヌテ神奧秘密ニ在リ故チ以テ略政府法令ノ

依ルキアリト虽凡確立明示スル法律ナク教生ノ權ハ猶執政者ノ意ニ任シ慣
習ノ外又民法ナリ政柄ヲ鹵莽ノ中ニ運轉シテ上ノ為ス所ハ下ノ得テ知ルヘ
カラサルヲ鬼神ノ測ルヘカラサルカ如ク人民ヲ畏懼ノ中籠絡シテ卑怯ノ心ヲ生
セシメ左右進退唯上ノ指意ニ柔順ナルヲ以テ治術ノ第一トシ上下皆共ニ各自權
利ノ何物タルヲ知ラス是レ之ヲ歷制未開ノ國ト謂フ徳川政府ノ如キ是ナリ維新
以來百度文明法律審詳權利ヲ人民ニ與ヘ政府ノ規受スルトコロ々之レヲ人
民ニ示シテ其旨ヲ隱ナス人民亦明ニ從フトコロヲ知テ政府ノ為ス所ニ惑ハス遠縣僻
俚ノ民ト虽凡皆其法律ニ遵テ已レカ權利ノアリアルヲ知ル故ニ問々有司ノ其法ヲ
出入スルアレハ人民之ヲ法律ニ訴ヘテ已レカ權利ヲ伸ルヲ得嗚呼亦人民ノ大幸福
ト謂ハサルヘケンヤ然ルニ独リ舊鶴岡縣政府ノ法令ヲ沮格シテ人民ニ宣布セス
歷制割剝縣民其荼毒ニ忍ヒス遂ニ臣等ニ頼ツテ哀ヲ政府ニ籲フ政府亦タ民ノ
其所ヲ獲サルヲ愍ニテ屢官吏ヲ汎遣シテ其事ヲ審判セシム然レモ未タ其民
心ニ壓カシムル能ハスシテ紛紜已マズ竟ニ臨時出張裁判ヲ開カレ稍其曲直ノ
アルトコロヲ明カニシ人民ノ枉害ヲ被ルヲ伸ルヲ得レト欲シテ又遷延次セス於

是縣民其裁決ヲ望ムノ切ナル再ヒ之レヲ司法省ニ請ツテ司法省理セス今又
終ニ之レヲ閣下ニ請フ而シテ閣下亦省セス嗚呼亦何ゾ独リ吾縣民ノ不幸ナル
是レ事ノ正ニ已ムヲ得サル者乎既ニ復自カラ思フ政府ハ猶父母也書曰踰泣
干是天干父母子ノ父母ニ於ケル何ソ一再請ツテ得ス自カラ已ムモノアラヤ故又
之レヲ閣下ニ請フ閣下其少シク憐ヲ垂ヨ或曰子カ言フトコロノ如キ司法卿豈
之レヲ知ラカラヤ但舊縣官已ニ去リ新縣令明ニシテ民ヲ恤フ已往ノ事ハ深
ク咎ルニヨラサル故ナリ嗚呼是レ類ヲ知ラサルノ言ナリ法ノ已往ニ及ハサルハ新ニ
設クルノ法ハ已往ノ事ヲ治セサルヲ謂ナリ凡ソ支ノ訴ヘナルモノハ皆已ニ然ルノ
事ニシテ其豫定スル法律ニ悖戾スルヲ法衙ニ審判スルナリ然レモ之ヲ已往ノ事
ハ治セスト云テ已ムヘケンヤ况ニヤ誤件ノ如キハ當時縣官ノ歷制割剝ヲ訴ルナリ
現ニ被ルノ損害ヲ償フヲ求ルナリ何ソ之レヲ已往ト謂ヤ然ルニ勤モスレハ或者
ノ者ヲ為スモノハ是亦裁判遷延時已ニ過クルヲ以テスルニアラヤ臣法家ノ言ナ
リ聞ニ曰裁判遷延スレハ法律ノ効用ヲ薄クスト何トナレハ時已ニ去レハ其判次人心
ニ感スル切ナラス或ハ信用ヲ法律ニ失ハナリ故ニ法律ノ用ハ速ニ次スルニアリ

若史レ法律己ニ人民ニ信セラレスハ其何ヲ以テ能ク國ヲ治ニ故ニ能ク政ヲ施ス者
ハ必ス先ツ信ヲ民ニ取ル昔ニ高鞅ノ法ヲ秦國ニ定ムト欲ス民ノ從ハサルヲ恐ル木ヲ西門ニ
立テ、曰能ク東門ニ從ス者ハ十金ヲ與ント民從ス者ナシ又曰百金ヲ與ント於是一人
之レヲ從ス者アリ即之レニ百金ヲ與フ百金重カラサルニ非サル也之レヲ從ス者即ア
ルニアラサル也然ルニ高鞅ノ之ヲ為ス者ハ法ノ民ヲ欺カサルヲ明ニスルナリ故ヲ以テ法秦
國ニ行ハレテ天下敵スル者ナシ吏舊鶴岡縣民ノ壓制ノ下ヨリ出テ、患難ヲ憚カ
ラスシテ冤枉ヲ法衙ニ訴ルモノハ偏ニ政府ノ法ヲ信スルニ由ルナリ然ルニ數年ノ久
ヲ經テ遷延決セス臣恐ク後是民ノ法ヲ信セサル者アラントナリ舊縣官常曰
政府ノ令ハ信スルニ足ラスト今也殆ント舊縣官ノ言ヲシテ警ラシム臣恐クハ燕兒
ヲシテ椰榆ニテ笑ハシメンナリ是其影嚮ヲ全國ニ生スル殆ント小ナラス唯閣下
其又少シク意ヲ臣カ言ニ加ヘヨ宗兵衛 恐懼再拜

山形縣下羽前國田川郡
高坂邑廿九番地士族

明治十年十一月廿六日

大友宗兵衛印

呈

小テ